人工膝関節全置換術について

鎌野病院（広小路）　鎌野　俊哉

我が国では、高齢社会を迎えるにあたって健康寿命をいかに伸ばすかが重要です。人工膝関節全置換術を行うことによって、膝の痛みが軽減して自立歩行が可能な期間が伸びることになります。

変形性膝関節症に対する人工膝関節全置換術についてお話します。手術適応は、日常生活に支障がある痛みが保存的加療（投薬、注射、物療など）を行ってもよくならない場合に考慮します。さらに心臓、肺機能がしっかりしており全身麻酔（腰椎麻酔）、手術にしっかり耐えうる体力があることが必須条件となります。年齢も関節リウマチなどの既存疾患や外傷にともなう急激な変形がなければ年齢も65歳以上が望ましいです。

変形性膝関節症は、日本人においては通常、O脚での内側関節裂隙（すきま）を中心に疼痛を生じます。ちなみに、欧米人はX脚が多い傾向にあります。O脚の場合、レントゲン上の立位の写真では内側の関節裂隙の消失を認めます。安静時痛は少ないのですが体動時、特にイスからの立ち上がり、階段の下り、坂道の下りに痛みを生じやすいです。

人工膝関節全置換術の手術時間は通常1～2時間です。全身麻酔、腰椎麻酔下に行いますので術中に痛みを感じることはありません。リハビリとして、術後3～4日目から歩行練習や膝関節可動域訓練を開始します。術後の痛みは日に日に軽減していきます。入院は通常最低3週間ほどを要します。

続いて、手術の合併症についてですが、感染・肺塞栓・挿入した金属機器のゆるみ・出血などありますが、以前と比べて医療技術の進歩にともない手術のリスクは軽減されています。

最近、再生医療が話題ですが、軟骨再生医療に注目が集まっています。自身の軟骨片から軟骨細胞を培養して損傷部位に戻す治療です。現段階では治験段階ですが、将来現場の医療に役立つ日が近いと考えられます。

近年、医療機器の進歩、手術手技の進歩も目覚ましく、以前と比べて患者様の術後満足度は格段にアップしており、手術の安全性もかなり高くなってきました。この手術の最大の利点は痛みが軽減するということです。それにともなって膝痛が消失するために歩きやすくなり人生の終焉まで高いQOL（生活の質）を維持することが可能になります。手術に関して医師と良く相談して、既存疾患との兼ね合いを考慮しながら検討されるといいでしょう。

手術前・後の膝関節写真

手術前　手術後

手術前・後のレントゲン写真

手術前

手術後